

# 自治体との包括的地域連携協定による連携事業 — 芦屋町における「九女型人材育成プログラム」の実践 —

○澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)・西田真紀子(九州女子大学)

Keyword : 連携事業、地域課題解決、実践教育

## 【目的・背景】

九州女子大学・九州女子短期大学(以下、「本学」)では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、平成27年6月1日に地域教育実践研究センター(以下、「本センター」)を設置した。本センターでは、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組んでいる(図1)。

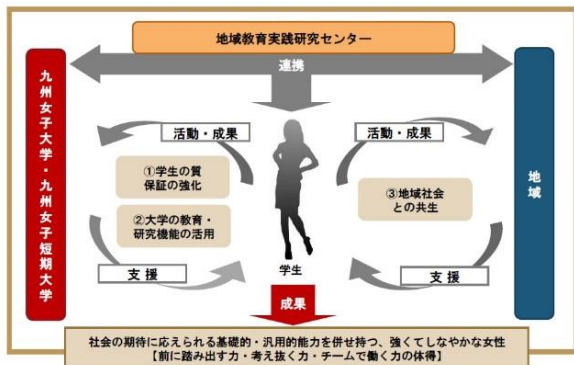


図1 地域教育実践研究センターの役割

その地域貢献(型)による大学創りの取り組みの一つとして、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、ならびに芦屋町の地域課題解決のため、平成28年3月に「包括的地域連携に関する協定」を締結した。

本報では、平成28年度から平成29年度までの芦屋町をフィールドとした「九女型人材育成プログラム(芦屋町課題発見プログラム)」の取り組みを報告する。

## 【実践内容】

### 九女型人材育成プログラムの実践方法

#### 1. 課題解決型ワークショップ

##### (目的)

本学の人材育成ビジョンとして基本的・汎用的能力を持つ強くてしなやかな女性の育成を掲げている。特にこれからの社会で必要となる力として、知識を活用して問題を解決するリテラシーと人と自分にベストな状態をもたらそうとするコンピテンシーをあわせ持つジェネリックスキルを身につけさせることを目的としている。

##### (対象学生)

九州女子大学 家政学部 人間生活学科 1年生 34名

##### (内容)

芦屋町の課題について、ジグソー学習法を用いて、課題解決学習を実施する。

##### ①個人読解

一人一種類の教材を読み込む

##### ②専門家グループ

同じ教材を担当する学生同士が内容を互いに確認のうえ共有し、共有した内容を他者へ伝える方法を考える。

##### ③ジグソー

元のグループに戻り、確認した資料を互いに説明し、全資料から見えてくる全体像をまとめる。

##### (効果)

ここでは、リテラシーを育成するため、本学の学生が一番苦手とする問題解決力を情報収集、情報分析、課題発見をすることで想像力を養い、問題を解決する力を身につける。



図2 課題解決型ワークショップの流れ

#### 2. ファシリテーターの養成

前年度に九女型人材育成プログラムで課題解決型ワークショップ経験者である人間生活学科の2年生の中でファシリテーター養成の希望者を対象に約1年間、芦屋町の課題発見を行う準備を進める。

##### ①芦屋町についての調査

芦屋町の散策、自治体の説明、町民とのグループワークなどを経て芦屋町を知る。

##### ②課題テーマの設定

芦屋町で調査した内容について、BS法、KJ法を用いて課題テーマを抽出する。テーマ決定後、カテゴリーに分類し、カテゴリー毎に小テーマを設け、資料内容を決定していく。

##### ③資料作成

課題テーマに基づき、カテゴリー別の小テーマ毎に班別に資料を集める。複数の資料を持ち寄り、資料の有効性を精査し、ジグソー学習のためのワークシートを作成する。このワークシートについては、ワークの回答まで作成し、資料集とワークシートに大別し、資料を完成させる。

##### ④課題解決型ワークショップ

芦屋町の一定の知識を1年間で学習した学生(人間生活学科2年生)が、芦屋町の知識を有しない学生(人間生活学科1年生)に対し、ジグソー学習法を用いて芦屋の課題を解決し、成果発表を行なう。



図3 芦屋町とのグループディスカッションの様子

**【実践結果】**

芦屋町が抱える課題を課題解決型のワークショップにおいて、具体的内容を提示し、4項目のカテゴリー別に分類した(表1)。

表1 具体的内容および分類分け

具体的内容
①はまゆう公園で行うイベントを企画し、SNSで発信する。(牛乳パックランタン作り)
②観光ポスターをいろいろな場所に貼り、多くの人の目に入るようにする。(ポスターにQRコードを付け、芦屋町のホームページへ移動するようにする。)
③カフェを開いてくれる人を、SNSやポスターを使って募集し、補助金をPRする。
④今ある補助金や施設、支援制度、住みややすい環境をSNSやポスター、地方メディアを利用し、発信PRする。
⑤観光ツアーを開催する。
⑥月事にイベントを企画し、年中観光ができるようにして人を集客する。
⑦航空自衛隊やブルーインパルスファンをターゲットに、芦屋町を観光地としてPRする。
⑧マジックミラートイレを取り入れ、観光名所にする。(設置費用約21万)
⑨はまゆう公園から徒歩5分のとと市場に名産物を置き、とと市場にも人が集まるようにする。
⑩福岡県内のウェディングプランナー養成学校と連携して、ウェディングの写真撮影などに恋人の聖地を使用する。
⑪カフェについては、イベントが無い日にも人を集客するために、出店する場所を考える。
⑫恋人の聖地の辺り一面に季節の花を植え、撮影スポットになるようにする。
⑬ボランティア団体(学生サークル)に依頼して、月1回の清掃活動をする。



分類項目
<b>1. 広報(SNS・ポスター)</b>
①イベントの企画・発信(牛乳パックランタン作り) ②観光ポスター ③カフェの併設にあたって、オーナーを募集し、補助金をPR ④芦屋町の助成金や支援制度、および住みややすい環境のPR
<b>2. イベントの企画・実施</b>
①はまゆう公園(牛乳パックランタン作り) ⑤観光ツアー ⑥月事にイベントを企画 ⑦芦屋航空自衛隊(ブルーインパルス)
<b>3. 観光スポット</b>
⑦芦屋航空自衛隊(ブルーインパルス) ⑧マジックミラートイレ ⑨とと市場(芦屋町の名産物) ⑩恋人の聖地(ウェディングプランナーと連携し、ウェディングフォトのスポットにする)
<b>4. 観光のための環境整備</b>
⑧マジックミラートイレの設置 ⑨とと市場に芦屋町の名産物を置く ⑪カフェの併設 ⑫恋人の聖地(花を植え、撮影スポットにする) ⑬清掃活動

その成果を芦屋町へ報告し、町が抱える課題を踏まえた実践活動として、平成29年度は、「2. イベントの企画・実施」および「4. 観光のための環境整備」の観点から、芦屋町で開催された「さわらサミット(H30. 2. 24、25開催)」において、学生が作成した学術パネルを展示し、このパネル付近に学生が育てた花(ビオラ<sup>※</sup>)の花を飾りつけた。ビオラで華やかな空間を形成し、最終日には来場者に無料配布した。学生が育てたビオラを通じてさわらサミットの思い出を形に残すとともに、芦屋町の紹介カードを併せて渡すことで、町のPRを行った。

※ビオラ/育ちが早く開花時期が長いため、初心者でも育てやすい。花言葉が「信頼」であることから、本学と信頼関係の意味を込めてビオラを選定した。



図4 さわらサミットにおいてパネルの展示・ビオラの配布

また、学生のジェネリックスキルの伸びの状況をプログテストによって客観的な評価を行った(表2、表3)。

表2 九州女子大学対象学生1年生  
(課題解決ワーク型ワークショップ参加者)

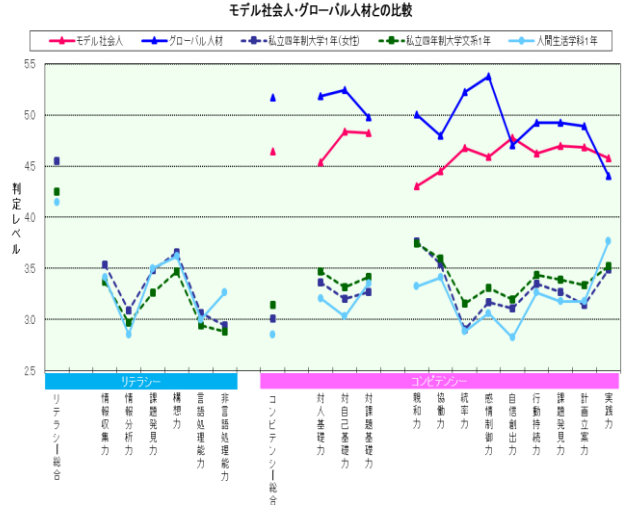
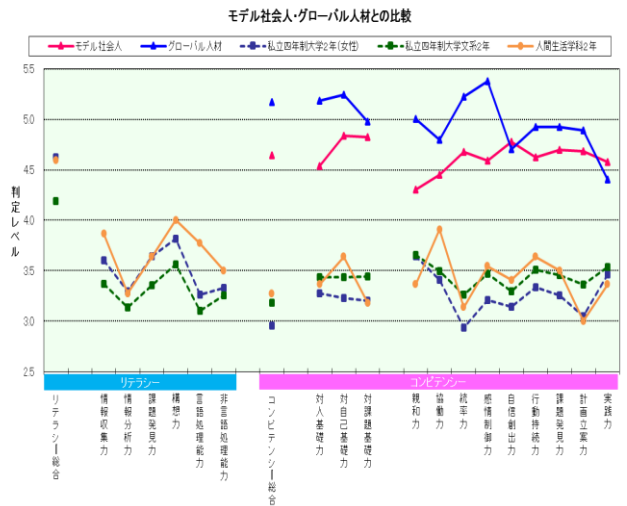


表3 九州女子大学対象学生2年生  
(課題解決型ワークショップファシリテーター)



※グローバル人材: 25~49歳の日本人ビジネスマン。アジアにおいて、外国人マネジメント経験があり、かつ当時のマネジメントに満足している者735名(卒業後在期間約4年)

**【考察・今後の展開】**

プログテストは、課題解決型ワークショップ終了後、学年最後の2月に実施したものである。このプログテストにより、九女型人材育成プログラムでの2年次に実施したファシリテーター養成は、ジェネリックスキルを身につけるための一定の効果が伺える。

地域活動を実践するにあたっては、その後の活動を充実した活動にするため、基礎力を身につける必要がある。この九女型人材育成プログラムは、実践力を身につけるファシリテーター養成プログラムとして位置付けていく必要がある。

また、地域活動を行なう際に活動に対してのムラをなくすため、本プログラムが本学の地域活動にどのような影響を与えていくのか、双方向からの客観的なデータを基に考察していく必要がある。

**【引用・参考文献】**

○九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター『平成29年度地域連携事業報告書』